

箴言12-15章「正しい者の栄誉」

1A 立ち続ける 12

- 1B 訓戒と叱責 1
- 2B 恵みと罰 2-8
- 3B 畑を耕す者 9-12
- 4B 口の実 13-23
- 5B いのちの道 24-28

2A 良い実を結ぶ 13

- 1B 父の訓戒 1
- 2B 潔白な生き方 2-6
- 3B 富 7-11
- 4B いのちの道 12-17
- 5B 貧困 18-25

3A 栄える 14

- 1B あざける者 1-9
- 2B 心の満足 10-14
- 3B わきまえ 15-18
- 4B 信頼 19-27
- 5B 国民 28-35

4A 正しい者の心 15

- 1B 穏やかな舌 1-7
- 2B 悪者の行ない 8-12
- 3B 心の健康 13-15
- 4B わずかな物 16-19
- 5B 熟考 20-28
- 6B 叱責 29-33

本文

箴言の学びです。私たちは前回、10章から「ソロモンの箴言」について見えています。ソロモンの格言と言ったほうがよいでしょう。先週の火曜日に、聖霊シリーズで「治める賜物」について学びましたが、ソロモンは王の地位に付いていますから、治める者がソロモンの格言にあるような知恵を持っていれば、その国は神の正義と平和で満たされることを思いました。神が知恵によって、私たちの間にも正義と平和が満ちるように祈りつつ、読み進めてみたいと思います。

1A 立ち続ける 12

1B 訓戒と叱責 1

12:1 訓戒を愛する人は知識を愛する。叱責を憎む者はまぬけ者だ。

格言というものの性質です。それは訓戒であり、叱責です。私たちは心に痛さをもって聞かなければ、知識というものは手に入れることはできません。正されていくことの喜びです。

2B 恵みと罰 2-8

12:2 善人は主から恵みをいただき、悪をたくらむ者は罰を受ける。12:3 人は悪をもって身を堅く立てることはできず、正しい人の根はゆるがない。12:4 しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのような。12:5 正しい人の計画することは公正で、悪者の指導には欺きがある。12:6 悪者のことばは血に飢えている。しかし正しい者の口は彼らを救い出す。12:7 悪者はくつがえされて、いなくなる。しかし正しい者の家は立ち続ける。12:8 人はその思慮深さによってほめられ、心のねじけた者はさげすまれる。

主からの恵みが流れ出て、そして揺るがない信仰によって支えられているのが、正しい者の家です。それは長続きます。恵みがあり、しっかりと安定しているからです。そして、救いがありますね。私たちの間で、魂の救い、困難からの救いが起こるのは、知恵の言葉によって人々に語りかける、その言葉によってです。そして妻についての話ですが、知恵を語る時に箴言は最後、31章にしっかりとした妻を具体的に描いています。家というのは、いかにその助け手がしっかりとしているかで決まってきます。

3B 畑を耕す者 9-12

12:9 身分の低い人で職を持っている者は、高ぶっている人で食に乏しい者にまさる。12:10 正しい者は、自分の家畜のいのちに気を配る。悪者のあわれみは、残忍である。12:11 自分の畑を耕す者は食糧に飽き足り、むなしいものを追い求める者は思慮に欠ける。12:12 悪者は、悪の網を張るのを好み、正しい者の根は、芽を出す。

生活における堅実さ、勤勉さを教えています。治める賜物の学びでも、熱心に指導する、心を込めて行なうという言葉が出てきました。それがたとえ地味な位置でも、その勤勉さが神に尊ばれます。そして興味深いことは、家畜の命です。自分の所有している家畜を大切に、ひいては動物を大切にすることがここに書かれています。神は、動物にも憐れみをしめしておられます。(例: 出エジプト 23:19)

4B 口の実 13-23

12:13 悪人はくちびるでそむきの罪を犯して、わなにかかる。しかし正しい者は苦しみを免れる。12:14 人はその口の実によって良いものに満ち足りる。人の手の働きはその人に報いを与える。

口から出てくる言葉についての格言です。

12:15 愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。12:16 愚か者は自分の怒りをすぐ現わす。利口な者ははずかしめを受けても黙っている。12:17 真実の申し立てをする人は正しいことを告げ、偽りの証人は欺き事を告げる。12:18 軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし知恵のある人の舌は人をいやす。12:19 真実のくちびるはいつまでも堅く立つ。偽りの舌はまばたきの間だけ。12:20 悪をたくらむ者の心には欺きがあり、平和を図る人には喜びがある。12:21 正しい者は何の災害にも会わない。悪者はわざわざいで満たされる。12:22 偽りのくちびるは主に忌みきらわれる。真実を行なう者は主に喜ばれる。12:23 利口な者は知識を隠し、愚かな者は自分の愚かさを言いふらす。

正しい人の口には思慮深さがあります。たとえ正しいと思っても、それに凝り固まらないでいます。だから、怒りをすぐに現わす人は、自分が正しいと思いこんでいるから現します。そして「軽率」も気をつけなければいけませんね、それによって心に剣を刺すことがあります。けれども、知恵を持っている人は反対に癒しを与えます。口が清められ、私たちの間で平和が広がるよう祈りたいです。

5B いのちの道 24-28

12:24 勤勉な者の手は支配する。無精者は苦役に服する。12:25 心に不安のある人は沈み、親切なことばは人を喜ばす。12:26 正しい者はその友を探り出し、悪者の道は彼らを迷わせる。12:27 無精者は獲物を捕えない。しかし勤勉な人は多くの尊い人を捕える。12:28 正義の道にはいのちがある。その道筋には死がない。

24 節は、治める者についての学びで引用した言葉です。指導する者には勤勉さが要求されます。反対に言うと、勤勉に手を動かしている人、わずかな物に忠実に仕えている人が多くのものを任せられるという原則です。そして、そこには多くの尊い人が与えられます。友の選びも大事です。教会でぜひ、自分が尊敬できるとする人に話せる人を見つけてください。その人は自分に都合の悪いことも言うかもしれません。けれども霊的成長のために必要なことです。そして今日の学びの箇所では、心の健康について多く書かれています。不安は人を沈み込ませますが、親切な言葉は人を喜ばせます。心が健康であることは、平和の支配のためにとっても大切なことです。

2A 良い実を結ぶ 13

1B 父の訓戒 1

13:1 知恵のある子は父の訓戒に従い、あざける者は叱責を聞かない。

再び、この格言の源が書かれています。父の訓戒に従う、ということです。格言の性質は、訓戒に従う、叱責を聞くということです。ですから、人々を導くことのできる人は、いかに堅い食物である知恵の言葉を聞けるかどうかにかかっています。それが痛いものであっても、しっかりと受けとめ

ることのできる人かどうか、であります。

2B 潔白な生き方 2-6

13:2 人はその口の実によって良いものを食べ、裏切り者は暴虐を食べる。13:3 自分の口を見張る者は自分のいのちを守り、くちびるを大きく開く者には滅びが来る。13:4 なまけ者は欲を起こしても心に何も無い。しかし勤勉な者の心は満たされる。13:5 正しい者は偽りのことばを憎む。悪者は悪臭を放ちながら恥ずべきふるまいをする。13:6 正義は潔白な生き方を保ち、悪は罪人を滅ぼす。

再び口に関する事、また勤勉に関する教えです。口は見張るものであること、そのまま語ればよいものではありません。そして、偽りの言葉を憎むことです。ローマ 12 章には、「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。(9 節)」とあります。たとえ言葉が優しくても、罪や悪を憎んでいなかったら、その愛は偽りに満ちるということです。そして、勤勉な者の「満ち足りる」については、パウロが、争いを引き起こしていた問題をテモテが取り組んでいる中で、彼にこう助言しました。「1テモテ 6:5-8 また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることできません。衣食があれば、それで満足すべきです。」

3B 富 7-11

13:7 富んでいるように見せかけ、何も持たない者がいる。貧しいように見せかけ、多くの財産を持つ者がいる。13:8 富はその人のいのちの身の代金である。しかし貧しい者は叱責を聞かない。13:9 正しい者の光は輝き、悪者のともしびは消える。13:10 高ぶりは、ただ争いを生じ、知恵は勧告を聞く者とともにある。13:11 急に得た財産は減るが、働いて集める者は、それを増す。

富についての格言です。富を得る者は、堅実で人に見せびらかすことはありません。これは、物理的な富でもそうでしょうが、霊的な実質においてもそのとおりです。堅実な人々は、多くを語らないし、それを吹聴しません。静かに仕え、しかし多くのことを行なっています。霊的な怠惰は、10 節にあるように高慢になります。語るだけ語り、争いを引き起こします。聞いて行なっているのか、それとも知恵を聞かないで語り続けるのか、その違いです。

4B いのちの道 12-17

13:12 期待が長びくと心は病む。望みがかなうことは、いのちの木である。13:13 みことばをさげすむ者は身を滅ぼし、命令を敬う者は報いを受ける。13:14 知恵のある者のおしえはいのちの泉、これによって、死のわなをのがれることができる。13:15 良い思慮は好意を生む。裏切り者の行ないは荒い。13:16 すべて利口な者は知識によって行動し、愚かな者は自分の愚かさを言い広める。13:17 悪い使者はわざわざに陥り、忠実な使者は人をいやす。

再び、心の健康についての格言です。期待と望み、これが叶えられるというのは心の源泉です。そして、それを与えるのは知恵であり、知恵ある者のおしえはいのちの泉とあります。そして忠実な使者は人を癒すとありますが、期待がかなえられ、いのちが与えられ、そして癒しが与えられる。そのような御霊による働きが起こることを期待します。

5B 貧困 18-25

13:18 貧乏と恥とは訓戒を無視する者に来る。しかし叱責を大事にする者はほめられる。13:19 望みがかなえられるのはこちよ。愚かな者は悪から離れることを忌みきらう。13:20 知恵のある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害を受ける。13:21 わざわいは罪人を追いかけて、幸いは正しい者に報いる。13:22 善良な人は子孫にゆずりの地を残す。罪人の財宝は正しい者のためにたくわえられる。13:23 貧しい者の開拓地に、多くの食糧がある。公義がないところで、財産は減ぼし尽くされる。13:24 むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。13:25 正しい者は食べてその食欲を満たし、悪者は腹をすかせる。

貧困がどのように襲うのか、そして正しい者がどのように満たされるのか、それを教えています。訓戒を無視するからだ、と言っています。ここで気をつけたいのは、当時、ソロモンの治世においての原則であるということです。主がソロモンに知恵を与え、そして平和と繁栄に満ちた国を与えられました。そこでは、知恵というものと富がそのまま連結していました。これは再臨のキリストの後の神の御国では実現しますが、私たちは霊的なところでの富が与えられます。訓戒を受けて、ビジネスで成功し、金持ちになれるという話ではありません。

22 節の善良な人がゆずりの地を受け継ぐ、とありますね。イエス様は、柔和な者が地を受け継ぐと約束しておられました。そして、悪い意図で動いていた者たちの財産をもその人たちが受け継ぐということです。つまり、善をあきらめずに行っていれば、必ずその人々のしていることが残るといことです。そして人間的な作為で何かをしている人はいつかなくなり、その残したのものを受け継ぐということです。

3A 栄える 14

1B あざける者 1-9

14:1 知恵のある女は自分の家を建て、愚かな女は自分の手でこれをこわす。

再び、女についての格言です。先ほどもそうですが、いかに女がその家に対して影響力を持っているのかどうかを教えています。

14:2 まっすぐに歩む者は、主を恐れ、曲がって歩む者は、主をさげすむ。14:3 愚か者の口には誇りの若枝がある。知恵のある者のくちびるは身を守る。

再び、口を制御することの戒めです。知恵を持つということは、語ることもあります、語らないことも知恵になるのです。

14:4 牛がいなければ飼葉おけはきれいだ。しかし牛の力によって収穫は多くなる。

興味深いですね、これは勤勉さを表している格言です。教会においても、「こうあるべきだ、こうすべきだ」ということをきれいに話すことができます。けれども、口ではなく、体を動かして実行する、そこには生々しい現実があります。きれいに話をまとめられない、けれども命があり、喜びがあり、御霊の力が働く領域があります。手を汚す必要があります。

14:5 真実な証人はまやかしを言わない。偽りの証人はまやかしを吹聴する。14:6 あざける者は知恵を捜しても得られない。しかし悟りのある者はたやすく知識を得る。14:7 愚かな者の前を離れ去れ。知識のことはそこにはない。14:8 利口な者は自分の知恵で自分の道をわきまえ、愚かな者は自分の愚かさで自分を欺く。14:9 罪過のためのいけにえは愚か者をあざけり、正しい者の間には恩恵がある。

これを読むと、愚か者、偽りの証人と、悟りのある者、利口な者との狭間の中で私たちが生きていくということが分かります。どちらに私たちが耳を傾けているのか、また聞き分けていられるのか？愚か者の前は離れ去れ、なのです。

2B 心の満足 10-14

14:10 心がその人自身の苦しみを知っている。その喜びにもほかの者はあずからない。14:11 悪者の家は滅ぼされ、正しい者の天幕は栄える。14:12 人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。14:13 笑うときにも心は痛み、終わりには喜びが悲しみとなる。14:14 心の墮落している者は自分の道に甘んじる。善良な人は彼から離れる。

再び心の健康について取り扱っています。その心の痛みまた喜びも、本人にしか分からないおのです。それから、心が痛い時は笑っても、喜んでいても、悲しみへの戻ってしまいます。それから、心が墮落している者の話をしていきます。「自分の道に甘んじる。」とあります。そうです、私たちはいつも成長する機会があります。今、辿っている道があるけれども、そこから脱線して、主が召しておられる道へ進むことがあるのです。けれども、いつまでもその道に甘んじている。成長しない道、これは避けなければいけません。

3B わきまえ 15-18

14:15 わきまえない者は何でも言われたことを信じ、利口な者は自分の歩みをわきまえる。14:16 知恵のある者は用心深くて悪を避け、愚かな者は怒りやすくて自信が強い。14:17 短気な者は愚かなことをする。悪をたくらむ者は憎まれる。14:18 わきまえない者は愚かさを受け継ぎ、利口な者は知識の冠をかぶる。

私たちには識別する義務があります。「1テサロニケ 5:21 すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」そして用心深さも必要です。人間がいれば、そこには悪が必ず存在します。それに対して用心深くなり、何が善であるかを見分け、それを選び取ります。それをしないで、単純に憤慨したら、それは愚かしいとソロモンは言います。

4B 信頼 19-27

14:19 悪人はよい人の前で、悪者は正しい人の門のところでは身をかがめる。

必ず善が悪の前で勝つことを約束しているものです。先週は、アメリカの教会で銃を乱射して、数人が射殺されるという事件が起こりましたが、そこで犯人に対して残された家族が、「私はあなたを赦します。」と全員言っていました。そして、一人は「憎しみは勝てません。」と話していました。愛と赦し、その善の前に悪はひれ伏さざるをえません。

14:20 貧しい者はその隣人にさえ憎まれるが、富む者を愛する人は多い。14:21 自分の隣人をさげすむ人は罪人。貧しい者をあわれむ人は幸いだ。

20 節は現実です。ソロモンは富んでいたもので、その富によってくる人たちはいたでしょう。けれども、隣人が貧しい人で心にかける人は幸いです。

14:22 悪をたくらむ者は迷い出るではないか。善を計る者には恵みとまことがある。14:23 すべての勤労には利益がある。おしゃべりは欠損を招くだけだ。14:24 知恵のある者の冠はその知恵。愚かな者のかぶり物はその愚かさ。

23 節は再び、「口を使うのではなく、手を動かさなさい。」という勧めです。御言葉に聞いたことを行なうのではなく、ただしゃべっているだけではいけないのです。実行に移します。兄弟たちの交わりの中で、奉仕の中で、そして隣人への証しの中で実行します。

14:25 誠実な証人は人のいのちを救い出す。欺く者はまやかしを吹聴する。14:26 力強い信頼は主を恐れることにあり、子たちの避け所となる。14:27 主を恐れることはいのちの泉、死のわなからのがれさせる。

主に対する力ある信頼は、人を死から救います。思い出すのはダニエルの三人の友人です。主を恐れるがゆえに、金の像を拝みませんでした。そして、燃える火の戸から救い出されました。

5B 国民 28-35

14:28 民の多いことは王の栄え。民がなくなれば君主は滅びる。14:29 怒りをおそくする者は英知を増し、気の短い者は愚かさを増す。14:30 穏やかな心は、からだのいのち。激しい思いは骨をむしばむ。14:31 寄るべのない者をしいたげる者は自分の造り主をそしり、貧しい者をあわれむ

者は造り主を敬う。14:32 悪者は自分の悪によって打ち倒され、正しい者は、自分の死の中にものがれ場がある。14:33 知恵は悟りのある者の心にかこぎ。愚かな者の間でもそれは知られている。14:34 正義は国を高め、罪は国民をはずかしめる。14:35 思慮深いしもべは王の好意を受け、恥知らずの者は王の激しい怒りに会う。

王について、国についての教えが多くありました。王が王であるゆえんは、民がいることです。どのようにして、いろいろな人のいる国を王が治めるのか？そこに必要なのは正義と公正、そして知恵であります。そして、心の穏やかさが問われています。自制は、御霊の実の現れです。それから、貧しい人への憐れみが再び出てきました。教会において貧しい人への施しは一つの命令です。

4A 正しい者の心 15

1B 穏やかな舌 1-7

15:1 柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。15:2 知恵のある者の舌は知識をよく用い、愚かな者の口は愚かさを吐き出す。15:3 主の御目はどこにでもあり、悪人と善人とを見張っている。15:4 穏やかな舌はいのちの木。偽りの舌はたましいの破滅。15:5 愚か者は自分の父の訓戒を侮る。叱責を大事にする者は利口になる。15:6 正しい者の家には多くの富がある。悪者の収穫は煩いをもたらす。15:7 知恵のある者のくちびるは知識を広める。愚かな者の心はそうではない。

ここでは、これまで語られていた「口を制する」ことが書いてあります。そして、「穏やかな心を保っておく」ということも書いてあります。そして、そうした心をすべてお見通しの神は、善人も悪人も知っておられます。善人の時は、主はその隠れた行いも見えておられ、報いを与えられます。同じように悪人も、それを隠れて行なっている、それを明らかにして裁かれます。

2B 悪者の行ない 8-12

15:8 悪者のいけにえは主に忌みきらわれる。正しい者の祈りは主に喜ばれる。15:9 主は悪者の行ないを忌みきらい、義を追い求める者を愛する。15:10 正しい道を捨てる者にはきびしい懲らしめがあり、叱責を憎む者は死に至る。15:11 よみと滅びの淵とは主の前にある。人の子らの心はなおさらのこと。15:12 あざける者はしかってくれる者を愛さない。知恵のある者にも近づかない。

同じいけにえでも、悪者が捧げるものは主は忌み嫌われます。同じように主を礼拝していても、主はその心の正しさを見極められます。興味深いのは、陰府と滅びの淵は主の前にあるということです。確かに、ハデスにおいて、ラザロと金持ちの話では、アブラハムに金持ちが話すことのできる近さがありました。主であればもちろんのことです。そして、心はさらに主の近くにあるということです。そして、こうした叱責、主の訓戒をなるべく近づかないようにする、愚かさも書いています。

3B 心の健康 13-15

15:13 心に喜びがあれば顔色を良くする。心に憂いがあれば気はふさぐ。15:14 悟りのある者の心は知識を求めるが、愚かな者の口は愚かさを食いあさる。15:15 悩む者には毎日が不吉の日であるが、心に楽しみのある人には毎日が宴会である。

心の健康が再び書かれています。喜びがあること、楽しみがあること、大事ですね。心が沈んでいた時に、「主にあって喜びなさい」という使徒パウロの言葉を思い出しました。状況については心が沈んでも、主にあっては喜ぶことができます。

4B わずかな物 16-19

15:16 わずかな物を持っていて主を恐れるのは、多くの財宝を持っていて恐慌があるのにまさる。15:17 野菜を食べて愛し合うのは、肥えた牛を食べて憎み合うのにまさる。15:18 激しやすい者は争いを引き起こし、怒りをおそくする者はいさかいを静める。15:19 なまけ者の道はいばらの生け垣のよう。実直な者の小道は平らな大路。

ああ、なんと大切な原則でしょうか、わずかな物によって主を恐れること、つまり量よりも質です。これは教会の交わりでもそうではないでしょうか。烏合の衆になっている大勢いる交わりより、御霊によって一致して、平和のある交わりを主は喜ばれます。わずかな物に忠実になること、とても大切です。

5B 熟考 20-28

15:20 知恵のある子は父を喜ばせ、愚かな者はその母をさげすむ。15:21 思慮に欠けている者は愚かさを喜び、英知のある者はまっすぐに歩む。15:22 密議をこらさなければ、計画は破れ、多くの助言者によって、成功する。

そうですね、イスラエルの国における戦い時に、密議がなされていたことが書かれています。ダビデとアブシャロムの戦いの時がそうでした。同じように、私たちは何か大きなことを計画する時に、祈り、そして主の御心と御言葉を求め、その中で何が正しいことか、御心にかなったことかを練磨していくことが必要でしょう。

15:23 良い返事をする人には喜びがあり、時宜にかなったことばは、いかにも美しい。

そうですね、自分が語ることは用意ができますが、返事というのは絶えず、その心の状態を保っていなければいけません。良い返事をするときに、喜びがあります。そして、時宜にかなった言葉も、すばらしいです。これも計画して言えるものではありません、主の御霊がそこにおられます。

15:24 悟りのある者はいのちの道を上って行く。これは下にあるよみを離れるためだ。15:25 主は高ぶる者の家を打ちこわし、やもめの地境を決められる。

これは、高ぶる者は人々の土地を買収し、搾取していきませんが、それを神は打ち壊されるという意味です。そして貧しいやもめの土地を回復、あるいは確保してください。

15:26 悪人の計画は主に忌みきらわれる。親切なことばは、きよい。15:27 利得をむさぼる者は自分の家族を煩わし、まいないを憎む者は生きながらえる。15:28 正しい者の心は、どう答えるかを思い巡らす。悪者の口は悪を吐き出す。

再び、言葉に関することです。親切な言葉、それからどう答えるか、しっかりと思い巡らす心、どちらも大事です。昨日、葬儀セミナーがありました。その時に、葬儀におけるクリスチャンの振る舞いについて話されました。それは、その場合によりどう行動すべきか決まるのですが、しっかりと証しを立てるのは、日頃からクリスチャンであることを公言し、そしてどう行動しているかで決まります。ペテロ第一にも、こう書いてあります。「3:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人々には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」

6B 叱責 29-33

15:29 主は悪者から遠ざかり、正しい者の祈りを聞かれる。15:30 目の光は心を喜ばせ、良い知らせは人を健やかにする。

心の健康です、目の光というのは、目から入ってくるものが体全体を良くするという考えです。私たちが何を見ているかで体と心も編まれます。そして良い知らせを聞くことは心を健やかにしますね。パウロも、主にあって喜びなさいというときに、こう言いました。「ピリピ 4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」

15:31 いのちに至る叱責を聞く耳のある者は、知恵のある者の間に宿る。15:32 訓戒を無視する者は自分のいのちをないがしろにする。叱責を聞き入れる者は思慮を得る。15:33 主を恐れることは知恵の訓戒である。謙遜は榮譽に先立つ。

叱責を聞くことの重要性を何度もソロモンは説いていますが、叱責を聞ける心の態度というのは、「謙遜」だということです。神から来た父としての権威、その権威の下にいかに関わることができるのか、それが謙遜を定義します。これは、時に悲しむべきことです。心が痛いからです。けれども、謙遜を身に付けることによって、その時に何がもっとも大切なことであるかを悟ります。最後に、ペテロが奨励した言葉を引用します。「1ペテロ 5:5-6 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」